

成川正晃教授追悼号の発刊に寄せて

成川正晃先生は、2022年4月6日にご自宅にてお亡くなりになりました。突然の訃報に、われわれ教職員一同は大きな衝撃を受けました。

成川先生は、亡くなられる5日前の2022年4月1日に、本学経営学部にとってのみでなく本学全体にとっても極めて重要なプログラムである会計プロフェッショナルプログラムを統括する会計プロフェッショナルプログラム担当者会議の座長を委嘱されており、これから様々な構想を実現させていこうとしている矢先の出来事でした。当時私は経営学部長に就任したばかりでしたが、自宅に学務課の熊坂さんから電話が入り、ご自宅で急逝されたという連絡を受け、成川先生を中心に更に活性化させていくための検討を始めた会計プロフェッショナルプログラムの体制に不安を感じながら、既に年度内最初の授業が始まる直前だった授業編成などの対応を急ぎました。しかし、何と言っても、成川先生は私と同じ本学大学院の卒業生ということもあり、同志としてこれからの東京経済大学の発展について、ゆっくり話し合う機会を得ないまま、その機会を永遠に失ってしまったことが、物凄く残念でなりませんでした。

成川先生は、1983年に明治大学商学部を卒業されてから、1986年には東京経済大学経営学研究科修士課程を修了され、2011年3月には同博士後期課程を単位取得満期退学されています。成川先生が所属されていた学会は、日本会計史学会、日本管理会計学会、国際会計研究学会、中小企業会計学会、日本会計教育学会、財務会計研究学会、日本会計研究学会、非営利法人研究学会、日本簿記学会と会計学の研究者として数多くの学会活動をされています。そのうちでも中小企業会計学会では研究担当理事、日本簿記学会でも理事、さらに日本会計教育学会でも理事（事務局長）を務められており、多くの学会においても人望を集めていたことが分かります。

成川先生が2014年に日本会計教育学会賞を受賞された研究論文「中小企業会計要領と会計教育」や、著書『ビジネスセンスが身につく簿記』（中央経済社）、『ビジネスセンスが身につく会計学』（中央経済社）、『アカウントティング・エッセンシャルズ基本簿記を学ぶ』（中央経済社）、『簿記の技法』（創成社）からも分かるように、実務に基づいた教育に非常に熱心だったことが拝察できる業績をいくつも残されています。

成川先生の大学教育の結晶とも言うべき成川正晃ゼミナールでは、会計情報と組織活動というテーマで、簿記や会計に関する知識は、公認会計士や税理士だけが勉強するものではなく、ビジネスパーソンとして必要であり、ビジネスセンスを育てるために一緒に学ぶというメッセージを、初心者を含めて広く学生に投げかけていました。成川先生を指導教授として

成川正晃教授追悼号の発刊に寄せて

教えを受けてきたゼミ生たちの気持ちを考えたとき、成川先生はきっと本当に胸が締め付けられるような無念さを残して逝かれたように思います。残されたゼミ生は、成川先生の想いや志を受け止めて、それを忘れることなく社会に出てからも頑張って欲しいと願ってやみません。

成川先生が目指した東京経済大学の簿記会計教育については、同じ卒業生としても同僚としても語り合うことはできませんでしたが、残されたわれわれ教職員ともども成川先生の気持ちを受け継いで精一杯取り組んでいきたいと思っています。何かアドバイスがあれば、天国からご指導の言葉を遠慮なく投げかけてください。必ず受け取ります。

最後になりますが、成川先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

経営学部長 本藤貴康